

2022 12/13

No.2176

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



相模鉄道と東急電鉄は、来年3月開業予定の新路線「相鉄・東急直通線」の新駅である新横浜駅（横浜市港北区）構内などを報道陣に公開するとともに、ダイヤ概要を発表した。



政経かながわ

2022 12/13 No.2176

contents

視点点描	3
「生きづらさ」の原因は？	
国際	4
米中間選挙 深まる国内分断 欧州、中ロ、日本への影響	
政治双眼鏡	8
内閣改造しても付け焼き刃 ささやかれる早期の衆院解散説	
経済双眼鏡	9
経済力なき軍事大国の末路 政府与党、防衛費財源に増税論	
社会	10
広がる「ホームステイジング」 シニアライフのサポートも	
企業最前線	12
CO ₂ 削減へ「海藻」に熱視線 電力、ゼネコン、鉄鋼… 臨海の自社施設で藻場育成	
かながわTODAY	14
11月の主な経済ニュース	

事務局だより

◇2023年1月の講演・見学会
1月12日（木）午後3時00分
～5時00分ごろ

関東学院大学 横浜・関内
キャンパス2階「テンネー記
念ホール」（横浜市中区万代
町1丁目）

講師：関東学院理事長 規矩
大義氏

演題：「関東学院大学・関内進
出への覚悟」

見学会：講演（約60分）後、
同キャンパスの見学会（40
～50分）を予定しています

◇2023年2月の講演会

2月17日（金）午後2時30分
～3時30分

新横浜プリンスホテル4階
「若菜」（新横浜駅近く）

講師：相模鉄道社長 千原
広司氏

演題：「相鉄の都心直通プロ
ジェクトについて」

（講演前に20人限定で新横
浜駅見学会を予定＝抽選制）

※新型コロナの感染拡大の状
況によって中止する場合があ
ります。

【新規会員】

・住友生命保険相互会社横浜支社
（22年12月）

視点 点描



「生きづらさ」の原因は？

「生きづらさ」という言葉が最近やたらと目につく。「○○らしさ」を暗に求められることが重荷になっているようだ。

11月19日は国際男性デーだった。1999年にトリニダード・トバゴで始まったとされるジェンダー平等を促す日。さまざまなメディアが取り上げ、神奈川新聞でも大きく報じた。その中で、女性支援団体「Lean In Tokyo」が実施したアンケート結

果の記事が興味深かった。

性自認が男性で、20〜50代を中心とした435人によると、「『男だから』という固定概念やプレッシャーにより生きづらさや不便を感じることはあるか」との問いに、41%が「頻繁に感じる」「たまに感じる」と回答。その理由は「収入が高く安定的な職業・職種を選ばなければいけない」「昇進に対して野心的でいなければいけない」「競争に勝たなければいけない」

を挙げており、一家の大黒柱としての役割が求められることにストレスを感じているのだそうだ。

30年ほど前、理想の男性像として「三高」なんて言葉が流行した時代があったが、時は流れ、そんな画一的な価値観など、とっくになくなっているかと思いきや、今なお、こんな不自由な価値観に縛られているなんて。驚きなのは、その「○○らしさ」のプレッシャー

を誰から感じるかという問いに、54%が「社会全体の風潮」と答えている点だ。これだけ、「多様性」や「ありのままの自分を大切にしよう」といわれている現代なのになぜ？と思うずにはいられない。一体全体、このギャップは何だろう。男性も、女性も、性的少数者も、障害者も、子供も、若者も、中年も、高齢者も、独身も、既婚者も……あらゆる属性で「生きづらさ」が蔓延まんえんしている。

「生きづらさ」の背景には、根深い人権問題などもある。きちんと光を当てて社会課題として位置づけ、解決に向けたアクションが必要だ。その中で政治や報道機関が果たすべき役割は大きい。

一方で、一人ひとりの行動もまた、変化の大きな原動力になる。無自覚なバイアスに捕らわれた言動をしていないか。人を属性で判断し、「○○らしさ」を押し付けていないか。「自分はきっと大丈夫」なんて思うのが、実は一番危うい。大抵の人間は、マイノリティーに属する面もあれば、マジョリティーに属する面も持ち合わせている。鈍感なりに言動を振り返り、改めるべき点があれば、これからも自分自身をアップデートしていききたい。

(神奈川新聞社統合編集局編成部長
小野 たまみ)